米の力でさらなる活躍を！
慶應義塾大学ラグビー部を市長が表敬訪問

本市は「みらい型農業事業」の一環で、市内産米を積極的に PR して消費の拡大を図っており、９月からは慶應義塾大学ラグビー部の選手寮に、市内産米を使った金芽米を提供しています。９月７日には、小田川市長がラグビー部を表敬訪問し、本市の米づくりに対する想いや市内産米の美味しさを伝えました。美味しさと栄養を兼ね備えた金芽米を食べ、さらなる活躍を期待しています。

舌で味わうことの大切さを感じて
伊奈東中学校でお米の授業が開催

10 月上旬、伊奈東中学校で、つくばみらい市みらいアンバサダー※の中川佳省（なかがわよしみ）さん（市内在住の料理研究家）によるお米の授業が行われました。当日は、お米の成分や栄養素、お米を食べることの大切さを舌で感じる味覚「味蕾（みらい）」について講義しました。中川さんは「人生を生きていく中で、口に入れるものへの関心をぜひ持ってほしい。そして、生まれたときから備わっている素晴らしい舌の“味覚センサー”を使って、味わうことの大切さを感じてほしい」と話してくれました。

※みらいアンバサダーについて、詳しくは広報７ページをご覧ください。

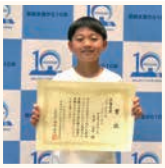
※ 24 時間で何 km 走れるかを競う競技

日本代表としてアジアの頂点へ
市民がウルトラトラックレース全国大会で優勝

6 月下旬、島根県で「第 1 回益田 24 時間ウルトラトラックレース※」（主催：日本ウルトラランナーズ協会）が行われ、市内在住の菊池裕樹（きくちひろき）さんが男子の部で見事優勝（239.660 km）し、来年開催の「2026 IAU 24 時間走アジア・オセアニア選手権」の代表に内定しました。菊池さんは「10 年間目標にしてきた日本代表の切符を手に入れたので、感無量でした。アジア大会では、メダルを目指して精一杯頑張ります」と今後の目標を力強く話してくれました。

水害の記憶を未来へ
常総水害の式典・シンポジウムが開催

9 月 28 日、常総市で「常総水害から 10 年～水害の記憶を未来へ～式典・シンポジウム」が開催されました。式典では、水防災意識社会の再構築および流域治水の取り組みを浸透・推進するため、行動宣言などが行われました。シンポジウムでは、伊奈高等学校書道部などによる書道パフォーマンス映像や小絹中学校などによる人文字メッセージ映像の上映、「未来のきぬがわ絵画コンクール」の表彰式などが行われました。また、屋外では自治体などによる防災イベントも開催され、多くの方が来場しました。



写真左から富士見ヶ丘小 江黒（えぐろ）ひよりさん（小学４年生の部 最優秀賞）、富士見ヶ丘小 髙橋凜（たかはしりん）さん（小学５年生の部 最優秀賞）、伊奈東小 大井涼平（おおいりょうへい）さん（小学３年生の部 最優秀賞）